

# 部会報告

〈学校教育部会〉

☆一九九三年五月二一日(金)於、大阪府同和地区総合福祉センター

「日本とアメリカの多文化主義について」

報告者||バーバラ・フィンケルシュタイン(メリーランド大学)  
「大阪教育大学の同和教育について」  
報告者||森 実(大阪教育大学)

〈要旨〉

人権教育国際交流委員会(HREネットワーク)がNIEELI(全米多文化教育指導者研修協会)の一行一二名を迎えて、日米人権教育交流セミナーを開催した。鈴木祥威さんの挨拶、出席者の自己紹介の後、アメリカ側、日本側からそれぞれの問題意識で報告があった。また、このセミナーは、学校教育部会としての位置づけもあり、以

下その要旨を報告する。

日本とアメリカの多文化主義について

バーバラ・フィンケルシュタイン(メリーランド大学)

日本とアメリカの多文化主義について、その概念や理解のされかたは両国においてかなり違いがある。アメリカではDiversity(多様性)ということばがよく使われているし、最近日本でも使われている。しかし、その使われている意味が随分違っているように思う。

例えば、東京で文部省の人たちが多様性を語る時、文化の多様性ではなく教育制度の多様性を語っていることに気づいた。また最近、中国やベトナム、韓国等外国籍の子どもたちが学んでいる学校の先生方の話を聞いてみると、たいへん親切に教えているが、他の子どもと同じように教えている、同化させようとしているように思った。先生

方の多様性とは、個性の多様性で、文化の多様性を語っていないことに気づいた。

大阪での多文化主義、多様性の論議の中で、文化の違う人たちとの接触の仕方が他の地域と少し違う。文化の違いも調和もどちらも認めながら接している。教育現場でも、大阪での多様性の理解とアメリカでの多様性の理解が似かよっていると感じた。以上問題提起として。

大阪教育大学の同和教育について  
森 実(大阪教育大学)

大阪教育大学の同和教育を学生のようすを通して話をしていきたいと思う。

最初に女子学生の例で、彼女は部落出身であることをあかさずに、部落外に住んでいた。近所の人から「あそこのお母さんは部落出身だ」と言われ、近所の人誰からも相手にされなかった。学生時代に彼女の友達に「親戚が

交通事故をおこし、相手が部落の人で、それでどうなるかと、みんなものすごく心配していた」と言った。そこで彼女はとつさに「なぜ相手が部落出身とわかったのか」と聞いたところ、友達には「免許証の住所を見て」と言った。そこで彼女は自分のことがばれたらどうなるかと脅えた。講義の中で、部落の地名をあげて授業をしていると、なぜそんなことをするんだと質問という形で抗議してきた。

次に男子学生で、彼は大学での同和教育が非常にもしろいと思っていた。それは、授業の中で在日朝鮮人の学生が、自分の生い立ちをしゃべり、それに感銘を受けた他の学生も自分の生い立ちをしゃべるといことがあったようだ。彼自身も、非常に厳しい家庭状況で育っており、将来同和教育を進める教師になりたいと思い、実際に同推校に勤務し熱心に同和教育に取り組んだ。数年後母親に同和教育について語っていると、母が「あんたも部落の子」と言った。

次は、学生時代に頑張った女子学生の例ですが、彼女は小さいときから部落出身を自覚してきた、さらに小学生の時、父母が離婚の話の中で母が父に「この子に、部落の子の上に、母子家庭の烙印まで押すのか」と言ったことを聞いて、あらためて部落出身とはこういうことなのかと思った。また学校での同和教育には失望していた。先生も本気でないように思うし、まわりの友達も無関心だった。大学にきて同和教育を受講し、夏休みの「身近な部落問題」という宿題の中で、自分は部落出身だと書いてきた。その後彼女は、先輩や友人と話をしているうちに考えるようになった。二年目に授業の中で出身宣言をし生い立ちを言う中で彼女に近い学生たちも、彼女をささえるために自分の生い立ちをしゃべった。彼女も現在教師になって悩みながら頑張っている。

的・主体的)に受け取り、読みといていくということである。そして、この目的は市民の立場から番組内容や報道の内容を変えていくことにある。日本のマスメディアの状況を見るとアジア諸国で唯一検閲を禁止するという自由な国であるにも関わらず、「天皇報道」に見られるように民主主義の国ではまれなメディア統制を行っている国である。

メディア・リテラシーはすでにカナダ、イギリス、オーストラリア、フィリピン、南米、ヨーロッパ諸国で公教育の場で行われ、九〇年にメディア・リテラシー国際会議が開催され、四五カ国から二〇〇人が参加している。

特に盛んなカナダでは、各州の教育省が教科書を作成している。その内のひとつであるオンタリオ州の教科書が昨年FCTの手により翻訳され、『メディア・リテラシー』メディアを読み解く(リベルタ出版)と題して出版された。それによるとメディアを見る際のキーコンセプトとして、①メディアは

すべて構成されたものである ②メディアはリアリティを構成する ③オーディエンスがメディアから意味を読み取る ④メディアは商売と密接な関係にある ⑤メディアはイデオロギーと価値観を伝えている ⑥メディアは社会的・政治的意味をもつ ⑦メディアの様式と内容は密接に関連している ⑧メディアはそれぞれ独自の芸術様式をもっている。

例えば湾岸戦争のときの報道を考えてみても広告代理店を中心に情報操作がなされ主戦論へと世論が誘導された。市民の立場としてメディアが現実をつくるということを直視してメディアとの付き合い方、変革への方向を探る必要がある。

ワークショップ「テレビは女性、男性をどう描いているのか」

鈴木さんをインストラクターに二〇程のCMを見ながらワークシートに商品名、登場人物の性別、年齢、外見・

落の子どもや、在日韓国・朝鮮人の子どもをささえる取り組みができたかと思っている。(文責…事務局)

#### 女性部会合宿

☆六月六日(日)～七日(月)

「メディア・リテラシーとは何か」

報告者||鈴木みどり(FCT)

「ワークショップ『テレビは女性、男性をどう描いているのか』」

「パート法の問題点」

報告者||大野町子(弁護士)

#### 概要

メディア・リテラシーとは

今回はメディア問題を中心に学習した。まず、FCTの鈴木みどりさんから「メディア・リテラシーとは何か」というテーマで、報告を受けた。それによるとメディア・リテラシーの基本は、新聞・雑誌・テレビなどのメディアからの情報をクリティカル(批判

容姿、音声面で女性、男性を表現する言葉、ボイス・オーバー、うたの性別を記入した。そして、二〇余りの参加者を四〜五人の小グループに分けて、全体の傾向と特徴を分析し、各グループごとに模造紙一枚にまとめ、代表者が全体で報告した。

ひとつひとつのCMを見ているときには気づきにくいのが、まとめてみると1、登場人物の特徴を見ると年齢的に非常に若い、白人の起用が多い。2、男性、女性の描き方を見ると服装については、男性は背広、女性は水着・ワンピースなどボディを強調するものが多い。演技内容を見ると男性は活動的で、女性はセックスアピールを強調するものがほとんど。3、子どもの起用も多くみられ、セクシーさを子どもに演技させるなど少女買春を連想させるものもあった。

ワークショップを行ってみての感想であるが、まず、参加者ひとりひとりが主体的に学習に参加することができ、身近な女性差別を見抜くための学

習として非常に有効である。また、CMなどでも複雑で洗練された表現がされているためそれを見抜くためにはかなりの力量が必要だと言うことである。

合宿の日程として、大野町子弁護士から現在国会に上程されているパート法の問題点。この間の「皇室報道の問題点」部落解放女性共闘が行ったアイヌ民族女性との交流。大阪府女性政策企画推進本部が制作した「男女協働社会の実現をめざす表現の手引」について報告を受けた。(文責：事務局)

#### 〈前近代史・近現代史部会合同例会〉

☆六月二日(土) 於、部落解放研究教育センター

「大坂の『非人』について」

報告者 小西 愛之助(前近代史部会)

#### 〈要旨〉

七〇二)で、課せられた仕事は火の用心の見回り、野非人の取り締まりなどである。

⑤和泉国のうち、堺の四ヶ所非人については、『御手鑑』(宝暦七年、一七五七年)などの史料で知られる通り、市中の警護(悪党を防ぐ)を行ない、刑吏役を課せられると同時に、泉州の村々に手下を派遣して情報収集に当たっていた。生活は物質で支えていた。

⑥豊田村の番非人については小谷家文書(国立史料館所蔵)から、少なくとも貞享四年(一六八七)にはいたことが確認でき、菱木村組頭―湊長吏の配下にあった。

⑦草部村の番非人はころびキリシタンで、豊田村と同じく貞享四年には存在していたことが確認できる(道頓堀非人関係文書)。貞享四年は徳川綱吉が「天主教徒査検」(ころびキリシタンとその類族を改める)令を出した年であり、賤民制度が強化されたことを示している。また同村番非人の一部は、享保三年(一七一八)に百姓の身分と

六月例会は第六回「大阪の部落史」研究会を兼ねて、小西愛之助さん(部落解放研究所前近代史部会)から「大坂の『非人』について」と題して報告を受けた。報告の要旨は、以下の通りである。

①大坂四ヶ所非人の成立は、「四ヶ所垣外由緒書上控」(『悲田院文書』)によって天王寺が文禄三年(一五九四)、薦田が慶長十四年(一六〇九)、道頓堀が元和八年(一六二二)、天満は寛永三年(一八二六)と確認できる。四ヶ所非人の身分秩序は、長吏―二老(但し道頓堀のみ)―組頭(または小頭)―若キ者―弟子・垣外番となっていた。享保改革は年貢増徴政策と賤民統制政策を二つの柱としていた。貴・士・農・工・商・賤のうち、無高百姓の多くは行き倒れとなり、たえず野非人に吸収されていった。

②摂津国のうち、喜連村に非人番が常駐するようになったのは享保八年(一七三三)で、それ以前は平野から通っていた。平野郷町の非人の人数は

された。なお泉州の非人に関する史料としては貞享二年(一六八五)の「泉州番非人申渡法度書」がもっとも古い(『阪南町史』下巻)。

⑧榎井村の非人番については、少なくとも享保五年(一七二〇)には存在していたこと、寛政六年(一七九四)の史料から貝塚の番人小頭の配下であり、堺の四ヶ所非人(のいずれか)の支配を受けていたことがわかる。

⑨ こうした近世非人は明治四年のいわゆる「解放令」によって解体した。(文責：事務局)

#### 〈地域・子ども部会〉

☆六月二日(月) 於、大阪府同和地区総合福祉センター

「アイヌ民族の文化と自然を守って」報告者 計良智子(ヤイユーカーラの森)

#### 〈要旨〉

アイヌ民族の計良智子さんを迎え

宝永五年(一七〇八)の四一人以降、幕末の文久三年(一八六三)の一七人まで減少している。近隣の村に常駐する非人が増加したためではないかと考えられる。また非人への役給は少なく、生活が困窮するので髪結を義務付けられていることが注目される。

③高浜村の非人番は文化八年(一一八一)に、地頭(旗本)と争って処罰された元庄屋に対して、大坂町奉行の指令にもとづいてではあるが同情的な行動をとった。こうしたことの結果か、同村非人番は「解放令」前の明治四年(一八七二)六月に村の宗盲人別帳に加えることを許されている。なお同村の百姓のうち髪結を兼ねるものは、同時に牢御屋舖御用人足を義務として課せられており、非人番と密着した関係にあった。

④河内国のうち、『東大阪市史 資料集』第六巻の(1)～(4)におさめられている村明細帳九六冊のうち、非人番の記載のあるものは三六冊にのぼる。もっとも古い史料は元禄十四年(一

で、地域・子ども部会が開催された。計良さんは現在、アイヌの文化や伝統を守り、さらに自然と共に生きるというところで「ヤイユーカーラ(自ら行動する)の森」という団体で活動している。

アイヌは日本人とは違う民族で、違う言葉があり、違う文化があったが、日本の侵略ですべて奪われた。そして、日本政府の北海道旧土人保護法のもとで差別されながら生きてきた。その同化政策の中で、自ら自分の文化をすてざるを得なくなって、日本人になろうとしてきた人も多くいた。

二〇年前のアイヌ民族に関する学会に、アイヌの人達が参加した。その中には、常にアイヌは、シャモ(和人)の学者の研究の材料であり、研究される側であった。そこで、アイヌのことは、アイヌ自ら行動し学んでいこう、自分達の文化や言葉を自分達で取り戻そうという思いがつのり、「ヤイユーカーラ民族学会」ができた。

アイヌとしての生活をしていたのは、私のおばあちゃん、おじいちゃんの世代になる。その時代に旧土人保護法ができた。父や母の世代は、同化政策のもとでアイヌのことは一切習わなかった。私ももちろん習わなかった。小・中学校の時、差別は特にわからなかった。

中学校を卒業して、東京で働き始めたとき、アイヌは毛深いということ、寮のお風呂で、いろいろ言われ、恥ずかしい思いをしながら、アイヌであることを自覚させられた。

自分の中にアイヌの血は流れているけれど、アイヌといわれても答えることができないくやしさがあつた。その頃に「ヤイユーカーラ民族学会」ができ、札幌に戻り、自分自身のために自分自身が知らなければということ、民族学会で活動してきた。その中で、言葉の研究や、おじいちゃん、おばあちゃんを呼んで来て、キャンプをし、山菜のとり方、山の使い方や見方など、アイヌの自然感をその場所に行つて教わ

るという体験学習をやつてきた。しかし、決まった場所ではないこと、二年前に「ヤイユーカーラの森」を作ることになった。

「ヤイユーカーラの森」は、アイヌだけでなく、和人の人にも参加してもらつて、アイヌを理解してもらいたいと思つている。現在会員は、二〇〇名、将来一万名を目標としている。具体的にやっていることは、キャンプの中で、木彫りや、山菜取りを、単に技術だけでなく、アイヌの生活もからめて学んでいる。

アイヌの文化や風習を、ちょっと聞くというだけではほんの一部しかわからない、私自身仕事をやめて一年間おばあちゃんと一緒に生活して、生のものを生のままでということ、体験を通していろいろ学んだ。その体験の一部を、現在「フチの伝えるところ―食生活から」という題で北海道新聞に連載中である。

アイヌの人の中には、アイヌ文化は知らない、和人の世界に近づいたほう

が子どものため、アイヌ語覚えるのから英語を覚えた方がましと思つている人もいる。

日本がアイヌにしてきたことは、日本が朝鮮半島でやつてきたことと全く同じである。朝鮮半島のことについては、現在かなりの人が知つているし、謝罪もある。しかし、アイヌについては、まず、アイヌのことを知らないし、侵略してきた歴史を知らない。まず、知つてもらわなければならぬ。こういう私も和人の中に部落差別があることは知らなかった。しかし、アイヌからみたら、被差別部落の人も含めて和人は差別者であり、アジアからみれば、アイヌも含めた日本人が侵略者だというのと同じである。

(文責：事務局)